

啓蟄を過ぎ、厳しかった冬の寒さからいろいろなものが動き出し、農園の草木も春を迎えています。寒さが厳しかったからか、今年は桜の開花が早く、卒業式に桜となっているところも多いようです。「桜の咲くころ1年生」は昔のことのようです。

今回から農園の情報は「農園通信」として発信させていただきます。時折々の農園の状況などを掲載していく予定です。



新たな学生の作付けを待つ畑

農園では新年度の開講に備えて準備を進めています。昨年度と同様、今年度もサツマイモ組とダイコン組で体験学習を行います。

農園の畑は今、新たに学生の皆さんを迎えるために休眠中で、春を待っています。

5月になればにぎやかな声と、作物の緑にも包まれて農園本来の姿になります。農園で野菜の種をまき、苗を植え付け、土に触れながら体験学習に臨んでください。虫が嫌いでもあきらめることはありません。そんな人が体験学習を通して虫嫌いを克服したとの声もありました。そこまでいかなくとも「見るのもいや」ではなくなるかもしれません。

冬の間、わずかに作物の残った農園を訪れるのは「ジョウビタキ」(尉火焚、♀)です。スズメほどの大きさの野鳥で、雌1羽が飛び回っていました。除草などをしていると近くへ寄ってきて、そこへ出てくる虫を捕まえて食べていました。農園を縄張りとして飛び回り、時折、モズと追いかけてっこをしていました。暖かくなり、帰郷したようです。



令和4年度の「共通特論Ⅲ“農園体験”」は、履修申請した後で組の選択をしてもらいます。サツマイモ組は5月中旬から7月までと10月下旬の収穫、ダイコン組は9月上旬から12月上旬の間に農園へ来て野菜作りに取り組みます。選択に迷ったら農園へ問い合わせください。

自分で育てた野菜だけでなく、農園で栽培している旬の野菜も持ち帰ってもらいます。そして、それぞれのレシピで味わってください。



収穫を待つ実習畑のサツマイモ